

1. 単元名(主題) 「リサーチクエストを導出しよう(後編)」

～プレ探究における問いの多面的な検証と中間計画発表会に向けたスライド準備～

2. 本時の主題の概要および設定理由

前時までにおいて、生徒は各自の興味・関心に基づき、先行研究の調査(『課題研究メソッド』やインターネット等の活用)を行い、テーマに関する漠然とした「問い」を複数抽出する活動を行ってきた。

本時(後編)では、夏休み前に予定されている「プレ研究計画発表会」に向けた明確な見通しを持たせるとともに、これまで各自が立てた「問い」をさらに深化させ、研究の核となる「リサーチクエスト(RQ)」へと発展させる。単なる「調べ学習」にとどまる容易な問いや、検証不可能な問いを精査し、「未解決であり、かつこれから調査や実験で検証可能な本質的な問い」をチーム内で多面的に検証・設定するプロセスは、探究活動の論理性を担保する上で極めて重要である。また、情報の授業との連携によるGoogleスライドを用いた発表準備も本時に組み込まれており、学際的かつ実践的な研究計画の具体化を目的として本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **研究の見通しと計画性:** 7月に実施されるプレ研究計画発表会の目的および必要な発表スライドの基本構成(参考文献の引用形式等)を理解し、チーム内での役割分担を含めた作成計画の見通しを立てることができる。
- 2) **問いからリサーチクエストへの深化:** 先行研究の成果を踏まえ、単なる調べ学習に終わらない、解決すべき本質的かつ検証可能な「リサーチクエスト(RQ)」を導出し、言葉の定義を含めて具体化することができる。
- 3) **協働的な検証と合意形成:** チーム内での多面的な対話(「いつ」「どこで」「だれが」等の多角的な視点による検証)を通じ、設定したリサーチクエストの適切性と実現可能性を客観的に評価し、チームとしての合意形成を図ることができる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第06回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『前期プレ探究ノート』(Google Classroomにて配信済み)
- 共同編集用ファイル: 『プレ研究計画書兼報告書』(共有ドライブに原本テンプレート格納)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『前期プレ探究チーム決めスプレッドシート』(各教室用シート)
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認。 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第6回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
4分	(2) 中間目標(プレ研究計画発表会)の見通しと発表スライド作成の説明 7月に実施される発表会の概要(1チーム4分、スライド4枚以上、構成内容など)を理解し、スライドファイルの初期設定を行う。	- スライドの基本構成(テーマ、背景、リサーチクエスチョン、仮説・検証方法、参考文献)を解説する。 - 情報の授業の実習と連動しているため、外部ツール(Canva等)ではなく、必ずGoogleスライドを使用することを徹底させる。 - 指定の共有フォルダ内に「チーム番号+研究計画発表」の名称でファイルを新規作成し、本日の作業としてファイル名の変更までを確実に実施するよう指示する。 『課題研究メソッド』を参考に、最終スライドにおける参考文献の厳格な記述形式(本、論文、Webサイトの書き分け)について周知する。
4分	(3) 本時の活動内容の説明およびリサーチクエスチョン(RQ)導出のポイント解説 前時までの「先行研究調査」および「問いを立てるワーク」を振り返り、本時のゴールである「リサーチクエスチョンの導出」における留意点を理解する。	『前期プレ探究ノート』の進捗を確認し、本時は(3)の完成と(4)への着手が目標であることを明確に示す。 「調べればすぐに答えが分かる問い」や「時間的・労力的に実現不可能な問い」はリサーチクエスチョン(RQ)にふさわしくないことを説明する。 「すぐには答えは見つからないが、これから調査や実験で検証可能な問い」を見出すためのポイント(言葉の定義の理解、多面的な検証、取り組む意義など)を解説し、理解を促す。
38分	(4) グループワーク (プレ探究ノートの記入、RQの導出・多面的検証、スライドの準備) チーム内でこれまでに立てた「問い」を共有し、リサーチクエスチョンとして適切かを多面的に検証してノートにまとめる。並行して発表用スライドの準備を進める。	- 教員は各チームを机間巡視し、進捗状況をリアルタイムで把握する。 - 問いが単なる「調べ学習」ととどまっているチームに対しては、「なぜそうなるのか」「どのようにすれば解決できるか」といった問いの発展を促す声かけを行う。 - リサーチクエスチョンに用いられている言葉の定義が曖昧な場合、具体化(「いつ」「どこで」「だれが」など)を指導する。 - 欠席者がいるチームや、テーマ設定で難航しているチームには、担当教員が個別に入り、対話を促してサポートする。 - 残り時間を見ながら、本時中に必ず『前期プレ探究ノート』の(3)を終わらせ、(4)の導出候補を挙げるよう時間管理を促す。
2分	(5) 本時の振り返りと次回の予告 各チームの進捗状況(プレ探究ノートの記入やスライド初期設定の完了)を確認し、次回の課題(仮説の設定)と作業の見通しを把握する。	- 本時のワークの進捗状況(『前期プレ探究ノート』の(3)の完了、および(4)への着手)を口頭で確認する。 - 次回は、設定したリサーチクエスチョンに対する「仮の答え」である「仮説(プレ探究ノート(5))」を立てる活動を行うこと、および引き続き発表スライドの準備を進めることを予告する。